

アメリカの種苗見聞記……(三)

— 西部各州の旅 —

中野 富雄

八月も半ばすぎると稔りの秋が近づいて来る。この頃からアメリカでは、各州でステートフェアが開催される。これは農産物—勿論畜産物も含めて—の共進会を主体とした農業祭で、各郡でも開くが、州で開く場合は仲々大仕掛で見ものである。我々が、アイオワ州の首都デモインを去る前日、州のステートフェアが開催され、半日これを訪ねる機会を得た。郊外にフェアグラウンドとして恒久的な施設が造られて居り、競馬、自動車競走の出来るスタディウムや、展示館、家畜の収容所まで立派なものである。凡ゆる農産物が全州から出品されて居り、牛、羊、豚、鶏などの家畜から、蔬菜、禾穀類、牧草に至るまで夫々審査され等級がきめられる。これらの会場の整理は殆どが四日クラブの青年達によつて運営されて居り、彼等が夫々の出品物、特に牛や羊の手入に大童の風景はほほ笑ましかった。家畜の中では、特に肉牛の種々の種類が出品されているのが珍らしく、むしろ乳牛よりも頭数も多く、米国における肉牛の生産と消費が如何に多いかを物語っている様だった。何れの家畜についても品種が非常に多く、乳牛ではホルスタイン、エヤンシャー、

ジャージー、ガンジーなど、肉牛ではヘレンフォード、アンガス、ショートホーンといった様に、豚鶏の場合も数多くの品種が利用されて居り、夫々の立地条件や経営条件に合せて品種の選定が行われている様に見受けられた。アイオワ州は所謂コーンベルトの中心地であり、合衆国切つての農業地帯で、玉蜀黍の生産と同時に牛及び豚の生産では全米に著名であるだけに、この品評会の内容の充実している理由が肯かれた。農産物の品評会は主として青果物が主体となつて行われていたが、乾牧草も夫々出品されているのは面白かった。アルファルファは勿論、レッドクロバ、アルサイククロバ、ラデノクロバやチモシー、プロムフェスク、リードカナリীগラスなどが、色も鮮やかに乾燥され等級がつけられていた。又、各農具会社の農具の実演展示も大変なもので、農具が非常に大型であるため、会場の相当な面積を占領し壯観である。特に灌漑用の大農具、巨大な綜合收穫機、穀物類の乾燥機などは一寸日本では見られぬもので、種々雑誌では見ていたものの一応目を見はらされた。

会場の半分は、自動車競走場、サーカスなど大人も子供も一家で楽しめる遊園地となつて居り、何処も同じお祭り騒ぎであつた。アメリカ人の生活はスピードとスリルに満ちていると聞いて居たが、成程自動車の競走と言ひ、又、メリーゴーラウンドの廻転速度にしても日本の二倍位であり、ローリースターのスピードも早く、見てい

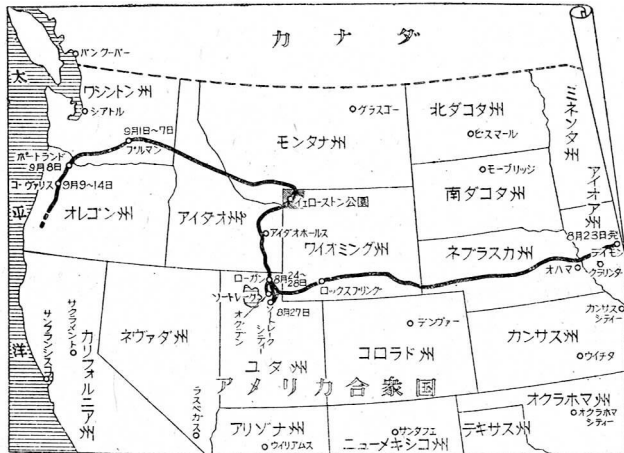


図 行程 旅 学 見 筆 者 の

る方が目を廻しそうな騒ぎであつた。この中で一寸気になつたのは、アメリカ陸軍の戦車、高射砲、ヘリコプターの展示で、どうも戦時中の日本を思わせる風景であつた。八月二十三日アイオワ州での予定を終り、夕方デモインを出発した。丁度日本から便りがあり、一行の浦野啓司氏が博士号を授与されたことを知り、一同祝賀の晩さ

ん会を催してから汽車に乗る。夜行列車はミシシッピー河の上流を渡り、ネブラスカ州の平原を行く。

翌朝は早やワイオミング州にあり、アメリカの中央部所謂大草原地帯を走つている。窓外の景色は眩しい日光の中に、涯なく続く半砂漠の様な波状草原である。この草原はカナダ領からメキシコに至るまで南北に続いて居り、ロッキーマウンズの東側にある海拔六〇〇米前後の地帯で、殆どが天然の草地であり、肉牛、羊が放牧されている。折から牧草の夏枯れ時で一面褐色となり、その間にセージブラッシュと呼ばれる半灌木状の雑草が目についた。全く広い、同時に荒涼たる感じが強い。しかし、アメリカの農業地帯の三〇%を占めるこの草原は全米人口の僅か三%を収容しながら、全米の肉牛の半、羊の半を生産しているという。狭い日本の事を思うと何んとかならんものかと思わず首をひねりたくなる。

ワイオミング州からユタ州へ入ると、この附近は既にロッキーマウンズの峻々たる岩山が周囲に見えて来る。樹木の姿が少く、如何にも乾き切つた感が深い。昔はインディアンの遊牧地であり、その後、この附近はスペイン人によつて統治されたらしい。スペイン系のアメリカ人、それにメキシコ人等が目立つ。有名なソルトレークの近く、オグデンで乗りかえて一山越えてローガンに着いた。ここにユタ州立

大学の農学部があり、ここで数日を過ごすこととなった。

ローガンはソートレークの東北方、ワイオミング州に近く、ロッキー山脈のある谷間——キャッシュユ・パレーにある静かな農村である。小高い丘に位置し、ニレや紅葉の木々の間から、モルモン教の美しい寺院や峨々たるロッキー山脈の山肌が見える。

大学は街を見下す丘の頂上にあり、新しい建物と緑の芝生の色が我々の目をうばった。夏休みの最中で学生は居らず到つて静か、昼間は概ね晴だが、夕方から毎日の様に雷雨があり、田園の情緒を彩つてくれる。ローガンでの視察の予定は主として灌漑下の蔬菜栽培、及びシュガービートとその種子生産について行うこととなつていたが、第一日は、サフラワー（新しい油料作物で主としてカリフォルニアで生産されているが、乾燥地に耐えるのでユタへも最近導入された。日本ではこの搾油粕を飼料として輸入している）の育種、麦類の耐病性品種の育種、玉蜀黍、牧草地への灌水設備を見学した。麦類の中で大麦については、日本の品種が育種材料として利用されて居り興味があつた。一般に耐病性が重視されると共に、強稈、矮性の系統が要望されるのは、機械による収穫を対象としているからで、衝撃により実の落ちにくい品種なども育種の重要な目標となつていた。育種の方法は特別新しいものではないが、X線の照射なども試みて居つた。

半日機会を得てエチオピアの学生と共に牧草関係の先生を訪ねた。ジョージ・E・

スタッドード氏で牧草類の混播利用に関する研究をしている。先年渡米された北海道庁の大塩氏を案内した由で、大へん懐しがつていた。この地方の家畜はホルスタイン、エヤンジャー、ジャーシー及び肉牛で、谷間の低地帯は主として乳牛、山腹地帯は肉牛と区分されている。何れも草地の灌漑を必要とし、灌水さえすれば良い草地を維持することが出来るようである。一般に土壤の反応は中性か、むしろアルカリ性である。アルファルファの生育などは見事である。大学ですすめている混播の例を示すと次の通りである。

- 1 初夏にのみ灌水する地帯（この地帯は春の水のみで真夏以後は水がない）
（反当播種量 ポンド）
スミーズブROOMグラス 一・二〇
アルファルファ（耐病性系） 一・二五
（水量が豊富であれば、ブROOMの代りにトールオートグラスを用いる）
- 2 晩夏以外に灌漑する地帯（この地帯は晩夏になると水がない）
スミーズブROOMグラス 一・〇〇
トールオートグラス 一・〇〇
オーチャードグラス 〇・八
アルファルファ（耐病性） 一・二五

註 この附近の気温は夏期最高華氏九六度、冬最低摂氏零下二五度、年間降雨量一六・五吋、その半分は夏の生育期間に雨として降水する。この雨は、四月、五月及び六月月上旬であり、七月、八月は高温乾燥する。一般の放牧期間は、四月二十日から十月中旬までである。

3 全季間灌漑出来る肥沃地帯
スミーズブROOMグラス 一・〇〇
トールオートグラス 一・〇〇
オーチャードグラス 〇・八
アルファルファ（耐病性） 〇・八
レッドクロバ 〇・八
ラデノクロバ 〇・二五

同じ条件で短年利用の場合
トールオートグラス 二・〇〇
オーチャードグラス 一・〇〇
レッドクロバ 一・〇〇

これ等の数字は、日本の立地条件ではその儘直ちに利用出来ないが、ここではこの様な多数混播が推奨されている。この酪農試験場では特にこの点を強調して、十一年間の試験の結果として灌漑草地の混播牧草の組合せを、次のようにすることを奨めている。

- アルファルファ（品種レンジャ） 〇・八
 - ラデノクロバ（保証種子） 〇・五
 - オーチャードグラス 〇・八
 - ブROOMグラス（南方型） 〇・一
 - リードカナリーグラス 〇・八
 - レッドクロバ 〇・八
 - トールオートグラス（脱稈種子） 〇・八
- 計 四・五封度
短年性

維持、家畜の嗜好においてもすぐれて居り、同時に土壤改良にも効果の大きいことを指摘していた。この草地にホルスタインが電牧されている状態を見たが、四囲の夏枯れに比し見事な草地であつた。日本でもこれからの集約的な輪換放牧草地にこの様な組合せを考へてみる必要がある。スタッドード氏は丁度混播牧草地の単位面積あたりの草種、草量の調査中であつたが、快く案内をひき受けてくれた。この地方の山腹地帯は別として、平地はアルファルファ（五十八年）、玉蜀黍、大麦の輪作で、時にはこの間にシュガービートが入る。アルファルファは大麦に混播する。一般には未だ単播が多く、混播の普及は将来の問題のようであつた。一日、カリフォルニア・パッキング・コーポレーションの経営する菜豆、玉蜀黍の罐詰工場を見学した。アメリカの罐詰工業の発達と利用は想像以上で、日常の食品も大半が罐詰である。凡ゆるものが罐詰されているといつても過言ではなからう。蔬菜類も、果物は勿論、菜豆、菠蓮草にいたるまで罐詰である。八月二十七日は、農学部長室のモン氏夫妻が車を運転してくれて、ソートレーク市近郊の日本人農家へ案内してくれた。ロッキー山脈をこえる約二時間のドライブである。平均六〇哩ぐらいで飛ばす。奥さんなど時々七〇哩ぐらいで前の車を追い越す。六〇歳に近い年齢と思われるが、感心もし群勇もした。ソートレークシティの郊外、レイトンに

住む山田新一さんはもう四〇年の在米といわれたが、息子さんなどすっかりアメリカ人である。日本語の方がたどたどしい。平坦な二〇〇エーカーの土地を持つて、蔬菜と家畜の生産をやっている。その概要は、アルファルファ(乾草又は放牧用)

三二一・三六町

トマト(罐詰用、モスコウ、ストーンなど) 六・四一六・八町

シユガービート(販売用)

馬鈴薯(自家用及び販売用)

玉ねぎ(販売用)

人参(五寸人参、販売用)

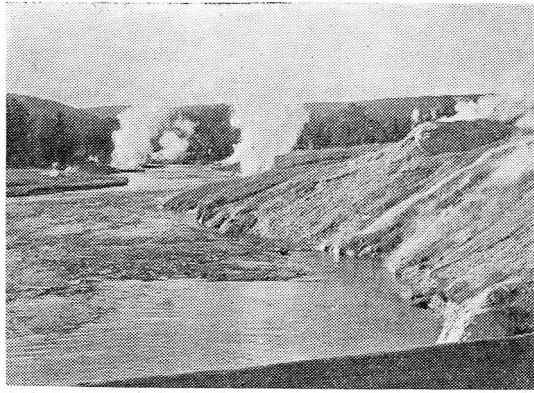
小麦(飼料及び販売用)

大麦(飼料及び販売用)

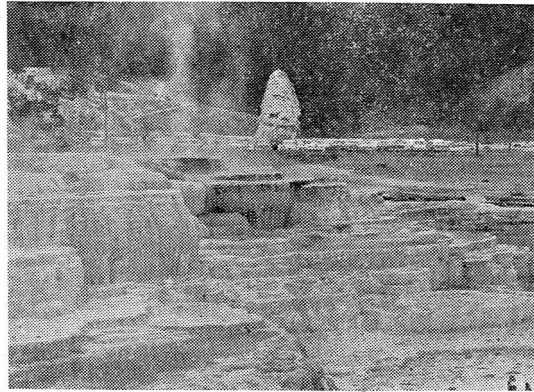
で、これに肉牛として雑種四五頭、登録牛七頭を持つて居る。蔬菜類はすべて会社と契約して作つて居り、家畜とアルファルファとの輪作により、地力の増進を図り、蔬菜の生産をあげようとしているらしい。

広い機械作業の圃場にしては良く生育し、且つ圃場も整然として居て見事であった。何れの圃場も溝を掘り溢水による灌漑法をとつていた。玉ねぎ、人参、トマト、何れも良くは出来ているが、日本のように一粒一粒を吟味する要望がないのではないかと、感じられた。事実確詰になるのであれば、その様な細かいことは問題にならぬのかも知れぬ。耐病性品種の育成が非常に重く扱われているのも、途中の管理と生産の維持のため、この広さと労力不足の所では、必要欠くべからざる条件となつてゐるからであらう。

モノジャーム(単胚種子)のシユーガービートの見事な生育振りや、苗植え機械など見せて頂いた上、昼は日本料理の御馳走に与つた。六十何年かの深い皺の中から、山田さんの過去の労苦が偲ばれる。仲々機械化に追われて楽ではない。トマトで反当二五、〇〇〇円位の収入で、平均すれば一万円前後とのこと、今後家畜の方へも地力とにらみ合せて力を入れたいと息子さんは語



ユーバ島などの砂糖生産地を控えているのに、いささか不思議にも思われた。経営的な及び国策的な観点からと思われるが、非常に良く出来て居り、且つ又、播種から収穫まで日本の様に多労作物とはいえず、ほとんど機械で処理されるので農家にとつては、良い現金収入を得る作物となつて居る様である。又これによつて輪作が否応なしに進められる点も注目がある。



イエローストン公園 ①温泉地帯 ②湯の華の結晶が、階段状をなすオパールテレス、向うは奇岩悪魔の拇指

つていた。帰途農務省のビート研究所へ立ち寄る。モノジャーム、耐病性、メールステリル(雄性不稔、一代雑種用)の育成を行つて居り、耐病性ではヴァイラス、ネマトーダの問題をとり上げていた。モノジャームやメールステリルも夫々実用の段階に達して居り、アメリカのシユーガービート生産が予想外に大きく重視されているのは、キ

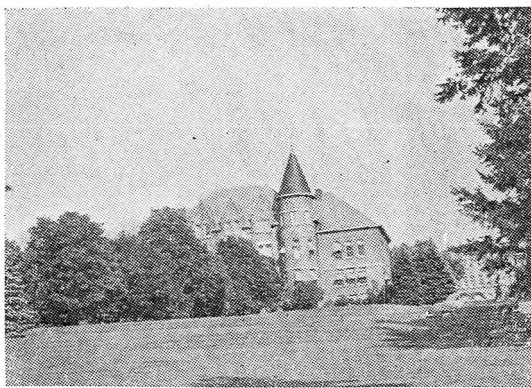
翌日アマルガム・シユガー・カンパニーを訪ねたが、ここでもモノジャームのハイブリッドを用いて居り、会社の指導で一代雑種種子の生産が行われて居つた。ハイブリッドコーンの生産会社の場合もそうであったが、大学の先生方と会社の育種家達とが実によく連繫を保ち、相互にゆききをして意見を交換している様で、所謂象牙の塔

的な感覚はない。

八月二十九日、美しい町の灯を後に見ながら、モン氏に送られてローガンを去る。次の予定地はワシントン州のプルマン、ワシントン州立大学である。幸い途中に有名な国立公園イエローストンがある。移動を利用して見物することとなつた。

イエローストン公園はアメリカで最初に指定された国立公園で、大部分はワイオミング州に属し、一部モンタナ、アイダホの両州に亘つて居る。三、七〇〇平方哩にわたる平均四、〇〇〇、五、〇〇〇呎の針葉樹に覆われたロッキー山脈の一部で、ここには、イエローストン湖とこれから流れ出るイエローストン河をめぐつて、無数の温泉が噴出し、特に間歇温泉や、峡谷、滝が有名である。我々一行は、アイダホ州から入り、二泊三日で一週した。誠にゼイタクな観光旅行で恐縮であったが、噂にたがわぬ大自然の素晴しさは、今日までの旅の疲れをいやすに十分であつた。第一夜はオールド・フェイスフル・インという立派なホテルに泊つた。ここは一带の温泉噴出地帯で、その中でもオールドフェイスフル(昔から忠実なという意味)とよばれる間歇泉は世界最大のものとして名高い。約一時間毎に噴出するが、一〇〇呎以上に真白な噴煙を上げ見事である。二日目は八月というのに雪の降る海拔七、〇〇〇呎のイエローストン湖畔を通つてイエローストン河の大峡谷を見物する。二段に滝があり、下流の滝は二三〇呎の高さとか、深い谷と背景の針葉樹林と

がマッチして見事である。峡谷は底が見えにくいほど深く、黄色い岩肌が印象的で、イエローストン(黄色の石の意味)の名はここから出たらしい。三日目はマンモスホットスプリングといわれる湯の華の結晶が山となつている珍らしい風景や、タロー滝などを右に左に眺めながら、山腹を大きく迂廻して降つてゆく。これ等の景色はとても下手な筆では画くことは難かしい。全く有難い体験であつた。この旅行中、感心したことは、とにかく道路のすばらしいこと、隅々まで舗装されている。又老人、夫婦、家族連れで、実に数多くの人々が楽しみに来ていること。然も、所謂日本の温泉地における風景は全く見受けられず、如何にもんびりと自然をたのしむ姿であつて、所交れば品変るとはいいながら、温泉といえど何かがつきものとなつてゐる日本の状態は考えさせられる。又、アメリカ人はあまり風呂へ入らんのか? 温泉を入浴に利用しようとしていないのは一寸奇異に感じられた。もう一つ面白いのは熊である。全く沢山いる。そして人や車に馴れて居り、道路にねそべつていたり、車に近寄つたりする。動物を大切にし且つ馴らすことの上手なおおどろく。我々はとてもおそろしくして傍



ワシントン州立大学本部 ローンと建物が美しい

へも寄れぬが彼等は全く平気のように見受けられた。イエローストンの夢もさめはてぬ内に、ワシントン州のブルマンに着いた。ここは又低い波状地の涯しなく続く麦地帯である。バスの窓外から見るのは、行けども行けども麦々々。これも丘の上に古城の如くそびえ立つワシントン州立大学で、主として麦類の生産と青穂、牧草の育種、ソイル・コンサーベーション・サーピス(土壤保全局)の圃場視察など一週間を過ごすこととなつた。

アメリカはソ連と共に世界での大きな麦の生産地を持つてゐる。中でもこのワシントン州のブルマン近くのパルス地方は屈指の生産地で麦畑一色であり、鉄道も麦の輸送のためにのみ、設けられている状態である。経営規模も従つて大きく、すべて大農具を用いて耕起、整地、播種が行われ、丁度今、耕起波

整地の最中で、状の果しない畑をトラクターが朦々たる土埃をあげて怪物の様に動いている。彼等は播種期と収穫期が忙しいだけで、それ以外の時は、中耕、除草はしないから全く暇で、数哩離れた隣人を訪ねたり、ピクニックに出かけたりして時を過す。人口も少なく、家もまばらで麦畑以外目を遮るものがない。所々防風林や風車、静物の貯蔵が景色の单调さを破つてくれる。彼

等の大部分は麦の連作でしかも波状地に拘わらず等高線栽培もやつていない。雨も比較的少いから目立つた土壌の流亡も見られないが、連作と冬期間の土壌の流亡による地方の損亡は疑う余地がない。彼等の大部分は麦の収穫は一に天候により左右されると信じている。投機農家であるが、最近では政府や学校の指導で、逐次土壤保全を考慮する様になつて来た。それは、草をとり入れた輪作経営である。一部の人はすでに豌豆をとり入れて、これを輪作作物の一つとしてゐるが、最近はルーサン、ホイトグ



研究用小型スレッシャ 麦を一品種毎に脱粒している

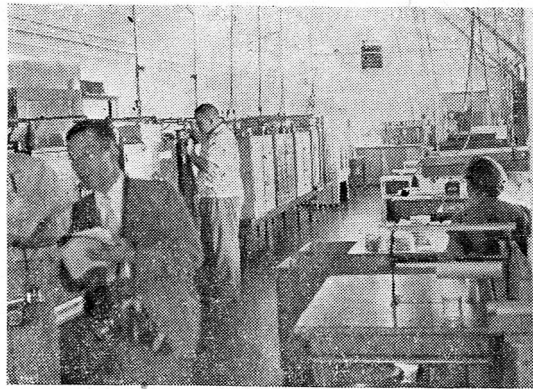
ラスなどを利用しようとし始めている。ブルマン大学の中には農務省土壤保全局の試験圃場が併置されている。この土壤保全試験圃場は全米の主要な地帯四つを選んで設置されているが、この試験圃場はワシントン、オレゴン、アイダホの三州の問題と取組んで居り、土壤保全の目的に合致し、且つ生産性の高い草の種類を選ぼうと努力をして、既に約二十年前から野草の蒐集、外国草種の導入をすると共に、各地の試験場から或は市販の種子から草の種類、系統を集めて、その土壤保全の観点から適否試験が行

われて来た。現在ワシントン地区で奨められている土壤保全適草種は、インターメデイエート・ホイトグラス、ウィットコル・スレンダー・ホイトグラス、プライコル・スレンダー・ホイトグラス、トパー・ピュブセン・ホイトグラス、トル・ホイトグラス、ブローマー・マウンテン・ブローム、マンチャ・スミューズブローム、ハードフェスキュー、ジャーマン・ビッグ・ブルグラスで、何れも耐寒、耐旱性の永年草で、生育、再生力の強い、根群の豊富な草種である。ホイトグラスが利用されてゐるといふことは話には聞いていたが、この様に実際に普及しつたことは参考となつた。日本でもこの草を必要とする地帯が少くない。特に山野の草生改良を必要とする所では、大いに検討するべきであらう。

麦類の育種については流石本場で、極めて膨大な仕事を極めて小人数で能率的に行つて居るのに感心した。育種の目標は種々あつたが、機械による栽培収穫を考慮して、矮性、強稈、耐病、或は実の脱落しがたいものの育成に力を入れていることはユタの大学と同様であつた。九月七日ブルマンを去つてポートランドへ出た。次の予定地オレゴン州立大学への途中、滝井氏の知人岡崎氏の御世話でポートランドに一泊した。ポートランドはオレゴン州最大の都市で、淡水港として、又その美しい町やバラ祭で有名である。オレゴン州の農地を南から北に流れるウイラメット

河がポートルランドでコロンビア河と合流する。この附近は米国でも有数の豊かな農業地帯で、酪農あり、果樹あり、蔬菜栽培あり、種子特に牧草種子の生産では、ワシントン州、カルフォルニア州と並んで有名である。東にはカスケード山脈、西には海岸山脈があり、特にカスケード山脈にはブード山、ムジャスタ山など一万呎以上の美しい山が万年雪を頂いて絶好の観光地となっている。我々一行は岡崎氏の御好意で車を駆つて、市内の有名なバラ園やコロンビア河畔の名所を案内して貰つたが、その間、ある日本人の経営する蔬菜農家を一戸訪ねる機会を得た。この附近には戦前から多数の日本人農家があり、園芸農業でその名を売つていたが、第二次大戦により土地を失つたり縮小したりして、戦後その回復には相当な苦勞があつたらしい。特に戦後はイタリヤ人農家の進出が著しく目立つていている。ここに訪ねた人も戦争により土地縮小の憂き目にあつた人であるが、それでも現在一〇〇エーカー（四〇町歩）の土地を持つて、蔬菜栽培では押しも押されぬ存在の様であつた。畑に行つてみて先ず目につくのは、広々とした、而も良く除草の行きとどいたレタス、カリフラワーの畑とキラキラと光つている灌水のパイプだ。見事な風景である。三人兄弟の経営というが、作物の出来栄えや手入の状態は圃場の広さに比し、素晴らしくゆきとどいてゐる。作付の概要はレタス（ちしや）一二エーカー（四町八反）カリフラワー（花野菜）一〇エーカー（四町）ピーマン二エーカー（八反）菜豆（青莢で収穫）二五エーカー（二〇町歩）トマト二エーカー（八反）胡瓜二エーカー（四反）プロッコリ（木立花野菜）二〇エーカー（八町）南瓜三エーカー（二

町二反）その他裏作にキャベツ、二十日大根なども作つてゐる。沖積土で表土は深いが、作物の生育期間中雨が少ないので、河から水を汲みあげて全圃場に適時灌水を行っている。丁度、カリフラワー、ピーマン、胡瓜、菜豆の収穫期で一家総出で働いて居たが、カリフラワー、ピーマンも良い出来で、年間の粗収入はエーカー当り、五〇〇〇弗から一、〇〇〇弗（反当換算四万五千元）九万円）といわれる。播種、移植は葉



オレゴン州立大学の種子検査室

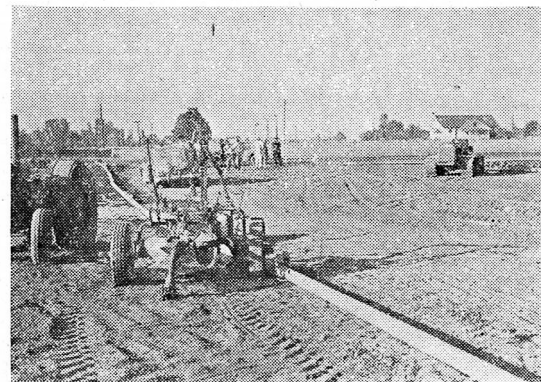
剤散布など出来るだけ機械化をしている様であるが、これ等の収穫はほとんど人手により、それ等の労力費の高いのが悩みであるらしい。地力の維持については輪作と冬作にベッチを利用し、これと石灰の施用を行つて、近隣の酪農家から厩肥を購入している。このことは全圃に対する灌水と相俟つて、生産を上げる根本原因となつてゐる様である。カリフラワーのあとにレタス

を入れるとか、或いはカブ、二十日大根の二毛作、又カリフラワーも逐次播種して逐次収穫するといった販売時期、収穫労力の調節、土地の高度利用についても種々と工夫をして居り、集約化された高度の技術を結果した園芸農業として興味深いものがある。

九月九日ウイラメット盆地の中心コーヴァリスに着いた。ここにオレゴン州立大学がある。ここでは種苗研究室や近郊の牧草種子生産業者を訪れた。牧草種子の主要産地として全く立派な種苗検査室をもつて居り、種子の生産地として優良種子の維持生産に、州全体が大きな関心を持つてゐることが窺ひ知られた。同時に種子の精選設備でも重力利用の選別機、種子の大きさ、型による選別機、或は荷電性による選別機等は大変興味深く見学した。又風力による種子のパイプ輸送も面白いと思つたが、これ等のものが逐次実際に種苗業者や採取農家にまで、普及して有効に活用されていることは羨しい実態であつた。コーヴァリスではその他種子生産者、業者を見学したが、ある採種農家は二、〇〇〇エーカー（八〇〇町歩）の採種圃を持ち、クリムソックローバー、ベッチ、ライグラス、フェスク、レッドクロバー、キャベツ、テールビット等の採種をやつて居た。大きな精選設備と倉庫を持ち、採種農家というより種苗業者といつた感じが強い。続いてジェンクス・ホワイト種子会社を見学したが、牧草種子生産会社として日本にも馴染みがあり、丁度ライグラスの精選に大きな精選工場一杯に活動して居た。この附近では豊科牧草では赤クロバー、ベッチ、クリムソックローバー、アルサイククロバーが主で、

禾本科では、ライグラス、フェスク、ペントグラスなどが主な採種作物である。最近ではサブクロバー、パースフットトレフォイルなどの採種が注目されて居り、その採種方法についても大学で研究を行つていた。特にパースフットトレフォイルに対する関心は各州を通じて深く、この適応性の広い多年性の豊科牧草を、有効に利用しようとしている様である。

九月十四日コーヴァリスを出発して、カ



キャベツの定植作業 灌水用具を総動員している

スケード山脈に沿つて南下、愈々カリフォルニアに入ることとなつた。ポートルランドサンフランシスコを結ぶサザンパシフィック鉄道は、カスケード山脈を縦断して走る。岨々たる岩山と針葉樹林の間を縫つて、ジャスタ山の白雪やオーデル湖の青い水面を眺めながら退屈しない汽車の旅であつた。

（雪印種苗・上野幌育種場長）